

平成 27 年度
第 5 期中原区区民会議 第 7 回課題調査部会

日時 平成27年11月11日（水）10：00～

場所 中原区役所 5階 503会議室

第5期中原区区民会議第7回課題調査部会 摘録

- 1 開催日時：平成27年11月11日（水）午前10:00～
- 2 場 所：中原区役所5階503会議室
- 3 出席者：成田部会長、反町副部会長、梅原委員、梶川委員、長尾委員、仲亀委員、山崎委員【委員7名】欠席者：田中委員、松本委員

（事務局）小野副区長、鈴木企画課長、江口係長、西山職員【企画課】
村田担当課長【危機管理担当】
岩下氏【コンサルタント（㈱カイト）】

4 議題等

- ・会議録確認委員の選任
- ・議題 検討テーマ「地域コミュニティ、みんなで育てる交通マナー ～歩きやすいまちに～」に関する調査検討について

5 傍聴者 なし

6 会議内容

- ・会議録確認委員の選任
会議録確認委員の選任について、第7回部会会議録確認委員は長尾委員を選任。
- ・審議テーマ「地域コミュニティ、みんなで育てる交通マナー ～歩きやすいまちに～」に関する調査検討について

（進行：岩下氏（コンサルタント（㈱カイト））

まず、資料1に基づき、審議の内容・進め方、スケジュール予定等について説明がなされ、続いて資料2及び参考資料2に基づき、これまでの会議での議論や委員から提出された意見も併せて、取組提案のアイデア出しに向けた論点整理が示された。

【意見交換】

仲亀委員 以前、提案したバス車内での自転車等のルールのアナウンスについて、可能であれば、私の所属する公益財団法人川崎市身体障害者協会から、市バスやその他のバス会社に依頼してもらおうよう話していきたいと思う。

事務局 バスの車内アナウンスについては、例えば市バスの場合、内容によっては市交通局が広告料をとって有料で行っているものもある。委員の皆様から取組について、もう少し絞り込みや重点など、一定性の方向性をいただければ、それに応じて、事務局でも調査をさせていただきたい。

コンサルタント 停留所等のアナウンスで最寄りの施設などが紹介されている例があるが、やはり、広告料を支払っているということか。

事務局 そのとおりである。バス停の名称などで、〇〇前などの固有名詞を使ってもらう場合にも広告料を支払っている場合がある。民間ではなく、公共的なものについて、どのような形でやっているかなどは調査する必要がある。

また、アナウンスは全て予め録音された音声を流しているのので、録音についての費用がかかることなども想定される。

仲亀委員 市バスでも、他のバス会社のバス車内でアナウンスしてもら場合でも、有料ということか。

事務局 アナウンス内容だけでなく、音声は録音したものを流しているのので、アナウンスをするだけでなく録音することも含めて、どのような場合が有料でどのくらいの費用がかかるのか、調査する必要がある。取組提案の方向性が決まった段階で、確認させていただきたい。

コンサルタント 参考資料でお配りしたのは、国土交通省の「公共交通機関等におけるベビーカー利用に関する協議会」で作成したポスターとベビーカーマークであり、御意見として出ている「ベビーカーのマナーに関するパンフレット等の作成」に活用できそうな資料として配布させていただいた。こういった資料を参考に、中原区独自のパンフレット等を作成するという事も考えられる。もう1つの資料は、茅ヶ崎市の自転車に関わる取組をまとめた資料で、川崎市と環境や条件が異なる面もあるが、高校生や教職員、PTAとの協働によるレインウェアの作成や、神奈川県自転車商協同組合による市内10会場での自転車点検、軒先駐輪場など、いくつか参考になりそうなユニークな取組がある。

反町副会長 レインウェアの作成などの取組はとても面白いと思う。もう少し目立つ色でもいいと思う。

コンサルタント 本日は、資料にある提案の絞込みに向けて検討していくこととなっている。現時点では、まだ漠然とした内容のものばかりであるが、いかがか。

梅原委員 自転車で絞り込むという考え方もあるのではないか。

成田部会長 中原区らしさを出すために、メインは自転車にして、併せてベビーカーと歩行者という3者を入れていくことで、「らしさ」が出せると思う。

梶川委員 国交省の協議会が作成したポスターはすごく見やすくてよいと思う。

山崎委員 このポスターの作成に関して、以前、所属団体を通じて意見を求められたことがあった。作成前に様々な場所でアンケートを取っており、「ベビーカーの利用で困っていることや嫌だなと思っていることはないか」など、様々な視点からのアンケートを実施した結果、作成したポスターである。これをそのまま活用させていただいてもいいと思う。他区から見ても中原区、特に小杉周辺はベビーカーを利用しながら安心して買物などができる地域と考えられているようである。

反町副会長 ベビーカーを利用する方を委縮させるような視点は入れづらい。子育て中のベビーカーを利用する方が気持ちよく安全に安心して歩くことができるよう応援する視点とともに、他方、ベビーカーの使い方によっては、他の歩行者の迷惑になってしまうこともあるので、気を付けて利用することも心掛けていただけるようにする。そうした視点が検討当初からあったと思う。

山崎委員 ベビーカーを利用しながら、スマートフォンの操作もして歩いているなどの行為は非常に気になる。やめてほしいと思う。

コンサルタント 今回のテーマもそうだが、1つ目のテーマに続いて、「地域コミュニティ」や「み

んなで」とキーワードを入れたところから、中原区らしさ、特色を出していくことを求めるとすると、対象について、自転車のルール・マナーだけではなくベビーカーの利用について取り込んでもよいと思われる。また、対象者についても、高齢者、保護者、中高生など、様々な御意見があるので、ここについても絞り込む必要がある。ベビーカーの利用者は、数年後には自転車の利用者になると思われる。ベビーカーの利用者にこの時点でマナーなどについて理解を得られるのであれば、自転車のマナーへの理解など、先につながるのではないかと。

成田部会長 ベビーカーの利用自体は、概ね2年程度で終わる。その後は子どもを乗せて自転車に乗るようになる。数年たてば、子どもたちも通学などで自転車に乗ることになる。というように成長やライフスタイルの変化によって利用する交通形態が変わっていくことになる。

コンサルタント ベビーカーのマナー、ベビーカーへの配慮については、車いすのマナーや配慮とも共通点が多く、併せてアピールすることも可能なように思う。

事務局(危機管理担当) ベビーカー、車いすと、自転車との大きな違いは、法律が適用されるかどうかである。ベビーカーは自転車とは異なり、道路交通法上の「軽車両」からは除外されており、キャスター付きの手荷物の一種と考慮していただいた方がよろしいかと思う。

コンサルタント 車いすは道路交通法上ではどのような取扱いとなるのか。

事務局(危機管理担当) 車いすも軽車両から除外されているが、ただし電動で自走するようなタイプの車いすについては、一部、特殊車両として扱う例がある。排気量、大きさ、動きなどによって判断され、手押し型の車いすについては、軽車両として扱われることはない。

梅原委員 お年寄りの中には、自転車がないと移動がなかなかできない方もいらっしゃる。日常の買物なども自転車を使っていて、停めるところに苦労している方もいらっしゃることから、対象を自転車に絞り込むことはよいと思う。

コンサルタント 自転車を通して、様々な世代に働きかけることができるということか。

梅原委員 中原区は平坦な土地柄、自転車の利用が本当に多い。

梶川委員 お年寄りの中には歩くより、自転車の方が楽という方も多い。普段の買物等でも自転車を使われている。ただし、中には危なっかしい運転の方もいらっしゃる。

コンサルタント 田中委員のお住まいの地域では、老人会で自転車の安全教室などを開催したというお話もあったと思う。

梅原委員 自転車の数を減らすためには、コミュニティ循環バスが必要だという話もあった。しかし、内容として大きすぎるテーマで、取り上げて議論するにはかなりの時間を要する。対象を自転車に絞ってはいかがか。

長尾委員 あらゆる世代が歩きやすいまちであることが必要。乳幼児などの世代はベビーカー、若い世代は自転車、高齢者など世代ごとにテーマを絞るなど、整理して捉えていくこともできる。

梅原委員 ベビーカーが手荷物の扱いになるとは知らなかった。

事務局(危機管理担当) スーツケースでキャリアがついているものも最近問題になってきている。

最近はケースが非常に大きいものも増えている。法律が現状になかなか追いついていない部分かと思う。キックスケーターなど、靴に車輪がついているものなどもある。

梶川委員 お年寄りが小さなキャリアーで車輪がついたカートを杖替わりに使っている例もある。あれも手荷物か。

事務局(危機管理担当) いろいろな形態のものできて、定義がなされていない状況かと思う。

梶川委員 歩いていて急に立ち止まられたりした場合、危なく感じることもある。

コンサルタント 世代別に捉えるというのは一つの手法かと思う。ベビーカーのマナーなどの啓発については参考資料を活用しながら、掲示をしていくような形が考えられる。また、高齢者については、交通安全の講座を増やしていくような方向性などか。

仲亀委員 私は高齢者という立場とともに、視力障がい者という立場があるわけだが、周りには杖をついて歩いている方が多い。高齢者はできるだけ平坦なところを歩きたいと思っている。1センチの段差でもつまづいてしまうことがある。私も頼りにしている点字ブロックの高さでつまづいてしまったこともある。私の夫は工務店をやっているが、段差を減らすバリアフリー化の仕事が最近多くなってきたようである。そもそも道路は水はけのために側溝に向けて少し斜めになっているので、その傾斜のせいで転倒しやすくなっている高齢者もいる。だから、歩道の中央を選んで歩いている方も多くいる。私が今、一番良くなっていると思うのは、歩道と車道の段差がなく、白線が引いてあるような道路で、このような道路はとても歩きやすいと感じる。

梅原委員 モトスミブレーメン通りなどは高齢者に配慮されているのか、道路に段差がなく、車道と歩道で敷石の色を変えて区別している。

梶川委員 敷石でも、結構細かいデコボコしている場合がある。

仲亀委員 視覚障がい者にとって最も目に入ってきやすいのは黄色のラインである。点字ブロックも黄色だが、私自身も階段の段差を黄色で示していただいているところは分かりやすいと感じている。コンクリートだけの階段は非常に見にくい。光っているのもダメ。

成田部会長 高齢者を考えると、どちらかという環境整備の方面に話が向かってしまうのではないか。PR、啓発の仕方多少し性質が違ってくるのではないか。自転車で危険な運転をしやすい世代を考えると、現役の世代ではないか。啓発は最も必要な取組かと思われる。今、挙げられている取組の中では、(1) (4) (5)の取組を併せてどのような展開ができるかと考えていけるとよいと思う。

反町副部会長 (1) (4) (5)の取組が話題に多くのぼっており、まず、取り組むべきところではないか。(2) (3) (6) (7)の取組も素晴らしいのだが、なかなかすぐにはできるところではないという面がある。自転車安全運転者証もよいと思うが、警察との連携など、関係機関との調整や検討に時間はかかると思う。優先順位としては、少し脇に置いておいて、まず、(1) (4) (5)の提案に取り組むということによいのではないか。対象については、世代で絞るのは難しいと思う。全ての世代に働きかけたい。絞らない方がよいのではないか。私は仕事でイ

イベントをいくつか手がけてやっているが、高齢者を対象としたイベントは、対象を捉えてイベントの内容をしっかりと組み立てれば、多くの高齢者に集まっていただくことができる。他方、若者を対象としてイベントは一生懸命やっても、こちらの事務局側のイメージどおりに人数を集めるのにかなり苦労をした経験が多い。現在、市のカラオケのイベントに協力しているが、そんなに周知していないにもかかわらず、会場にあふれんくらい若者が集まっている。集まっている場所で、若者に向けた啓発が展開できれば、効果があがると思う。お話の時間をそのイベントの中で設定させていただくことができると思う。

コンサルタント 運営部会で一番おもしろそうと話題に上っていたのが、中原区独自の自転車安全運転者証の作成をしたいという御意見だった。この取組案については、警察をはじめ関係機関などとの調整等に非常に時間がかかる取組でもあり、逆に捨てがたい面もあるため、まず啓発などに取り組みながら、今後、実現を目指して検討していくというまとめ方などもよいかもしいない。ベビーカーのマナーについては、啓発資料など何かを作る方向性を考えているか。

反町副会長 ベビーカーの安全な利用についての啓発を考えたとき、今回拝見した参考資料は完成度の高いものだと思う。

山崎委員 子育てマップなどの既存の取組と連携させてベビーカーのマナーを周知することができれば、効果は高いと思う。内容を足していくような形でいいのではないか。

成田部会長 歩道上で、ベビーカーの横列通行をして道を塞いでしまうこと、ショッピングセンターや飲食店などのベビーカーの駐輪などが課題かと思う。

長尾委員 まちでそのような状況を見かけることが多い。

梶川委員 ベビーカーにたくさんの荷物を周りにぶら下げている。楽なのは分かるが、あまりに多くの荷物を載せていると危険である。

成田部会長 ただ、今のベビーカーはそういった、手荷物も載せて利用できることを前提に作られているものもあり、それはルール違反なわけでない。

梅原委員 カート代わりにベビーカーを使っている高齢者などを見かけることもある。

コンサルタント 今回お配りした参考資料は2種類あって、一つは周囲の方々にベビーカーやその利用者への配慮を促す資料である。例えば、この資料を使って、まちの中に掲示していく。また、ベビーカーの利用者に向けてマナーを促す資料については、子育てサロンや乳幼児健診時に配布していく。

ただ、ベビーカーの利用者へマナーを促す資料を街頭で場所を選ばず掲示すると、ベビーカーとその利用者を悪者にしてしまう恐れがある。

梶川委員 確かにそうである。

梅原委員 今回の対象は自転車にしぼって、ベビーカーを除いてもよいと思うが。

梶川委員 小杉駅の周りでは本当にベビーカーを多く目にする。他の地域からいらっしゃる方も多いようである。

コンサルタント ベビーカーに関して、その方向性などいかがか。また、自転車についてもどうか。

梅原委員 (1) (4) (5) の提案が取り組みやすさの面からも、まずメインになるか

と思う。

成田部会長 3月19日はサイクルの日という発想はよかったのではないか。何かきっかけがないと継続性を持たせることも難しい。自転車の交通ルールやマナーを啓発してから、さらにその次の段階で、「自転車安全運転者証」を警察等とのタイアップもしながら考えていくことも考えられるので、手をつける最初の段階として、自転車に関する啓発について、十分検討していく必要がある。

コンサルタント 啓発の中で、例えば警察や関係団体と連携が進められれば、次の段階の取組も実現しやすくなるのではないか。自転車の販売や整備の業者との連携も模索したいところである。空気圧とブレーキの整備をポイントに点検の必要性などをアピールできるとよいのではないか。

梅原委員 ブレーキ、タイヤやライトなどか。

コンサルタント そのとおりであって、私は、ライトのことを忘れていた。盗難も多いという課題も指摘されていたので、鍵のことも考えられるかもしれない。

山崎委員 整備してない自転車などがあるわけだが、自転車の整備については何かしら法律に規定されていないのか、法律とは無関係なのか。

事務局(危機管理担当) 電動アシスト付きの自転車など、自転車の幅は広がってきているが、全て軽車両である。軽車両であるため整備が不十分であれば、処罰対象になる。自治体によっては「自転車安全整備済証」を発行しているところもある。そうした取組も考えられる。

コンサルタント ライトがついていなければ、それだけで罰則対象になりやすいと思われる。他方、ブレーキが摩耗しているというだけではなかなか摘発されないかもしれない。ところで、スケアードストレート方式の交通安全教室の拡大について、区の方で既に意向があるという話があったと記憶しているが、実際はいかがか。

事務局(危機管理担当) 川崎市7区のなかで、各区で年3回、スケアードストレート方式の教室が実施されているが、中原区以外では、中高生が対象となっている。中原区では小学校も含める形で年3回開催している。実際に今年は下小田中小学校で1回開催したが、これは授業参観日に実施し、生徒500人、保護者が1,000人と大変多くの方々に集まっていた中で実施したものである。来年度以降、実施に関する予算要求が認められれば、小学校での開催を年2回に増やし、合計で4回とし、さらには、今後、小学校での開催を年3回、合計5回までに増やして、親子双方にアピールできるよう、充実させていきたいと提案しているところである。

山崎委員 今年度分の教室は既に全て終了しているのか。

事務局(危機管理担当) 小・中・高等学校における開催分は終了したが、来年1月15日(金)14時～15時に、全国共済農業協同組合連合会(JA共済連)主催、神奈川県警察本部の共催で、スケアードストレート方式による交通安全教室が西中原中学校で開催される予定である。委員の皆さんに実際に見学にお越しいただきたいと考えている。通常は警備の面などから学校の関係者や地域の方に限定しているが、既に話を通しており、区民会議の委員の方については、受け入れていただけることになっている。

成田部会長 やはり実際に目で見て、視覚に訴えるとインパクトがあると思う。

事務局 (危機管理担当) 時速 30 キロで走る自動車を見せて、「早く感じるか」と聞くと、大抵、「それほどには早く感じない」との答えが返ってくる。ところがその自動車にマネキンが乗った自転車が衝突すると、すごい衝撃でマネキンの首が飛んだりする。それを見た子どもたちから「ギャー」と悲鳴もあがる。「時速 30 キロでも死亡事故は起こるんだよ」ということを知っていただき、他に巻き込み事故、接触事故など様々なケースを想定したスタントを実際に見てもらおうことになっている。

成田部会長 実際に目で見られる機会が増えるのが一番良いとは思いますが、なかなか増やせない面もある。以前、実現が難しいようにも伺ったのだが、スケアードストレート方式の教室の様子を映像で記録し、区のホームページ上やそこからのリンク先で公開して、より多くの方が目にするような方法も考えられる。そこに区民会議としてのアピールを加えられれば、なおよいと思われる。

事務局 (危機管理担当) 昨年、大西学園で実施された教室の様子がテレビ番組で放映されたが、学校側としては、生徒の顔が番組により流れてしまうといった点でプライバシーの問題があるそうで、個別に確認を取るなどの調整が難しいことなどがあると聞いている。このあたりがクリアになれば、区役所の待合所の画面で放映することなどもできるかと考えられる。

コンサルタント 提案 5 の啓発関係については、様々なアイデアが出ているが、どのあたりから始めたいと考えているか、また、どのターゲットにしたいか。

反町副部会長 SNS はいざやるとなると、開設・運営する人の確保、そこに登録してくれる人をどうやって集めるかなどの課題がある。登録してくれる人が増えないと情報発信の効果が得られない。新しい SNS を立ち上げるなら、おもしろそうな内容でないと、なかなか登録してもらえない。私も SNS の活用はできたらよいと思うし、何かいいアイデアが無いか考えているが、浮かんでこないのが実情である。例えば有名人を使うなど広告塔をたて、そのファンから広げていくようなやり方もあるが、難しいかなと思う。

コンサルタント 著名人を利用したとしても、なかなか継続が難しく、単年や期間限定になりがちである。

反町副部会長 川崎で活躍をされている方を起用する考えもある。一番有名なのは、川崎純情小町だが、既にかなりいろいろな市のキャンペーンに参加している。その他に思いつくのは川崎の三人姉妹「ちょっキンず」さんなど。子ども向けのイベントなどもされていて、融通も聞きそうである。そういった方に出演していただいて動画を作る。そして、コンサートの曲と曲の間のお話に入れて流してもらう。例えば、「私たちは実は中原区の自転車安全大使をしているが、こういうルールは知っているか」などと投げかけてもらう。これもやってみようということになれば、私の方から相手に声を掛けあってみることも可能である。

成田部会長 今回のテーマの目標となるような共通の標語が欲しいところである。

反町副部会長 「自転車も乗れば車の仲間入り」など、既に使われている標語もあり、それをそのまま使ってもよいと思うが、例えば小学生などを対象に標語を募集してコンテス

ト形式で表彰などすれば、それ自体も啓発・普及の取組になるのではないか。

事務局 以前、川崎市スポーツ協会が子どもたちの健康増進を目的に小中学生を対象として標語を募集し、その入選した作品をしおりにして、本屋にその配布をお願いしたという事例があった。同じような形で、区内の本屋をお願いすることなどもできるかもしれない。

事務局(危機管理担当) 最近、振り込め詐欺などの防犯キャンペーンで、元劇団四季の役者であった藤川氏に協力をお願いしたことがあったが、内容としては、自転車の交通安全を呼び掛けるような歌をつくり、歌ってもらって動画にするなど考えられると思う。

反町副会長 区にゆかりのある方にやっていただけるなら、とてもいいと思う。

コンサルタント 広報大使や歌などは新しいアイデアではないか。

山崎委員 過去に実績がある取組はやりやすいと思う。標語のコンテストや、しおりの作成などは啓発事業としてすぐできるのではないか。

コンサルタント 標語の募集は、コンテスト形式なら参加型の取組になる。中原区まちづくり推進委員会で、マナー・モラルアップのポスターの展示や審査による表彰をやってきた実績があり、そうしたところをお願いするのも一つの手法である。

梅原委員 広報の対象が広すぎるのではないか。やはり、ターゲットに応じて、広報の手法も分けて考える必要があると思う。Facebookなどは使う世代が限られている。

反町副会長 若い世代にはうまく発信しないと、真っ先に削除したり、捨てられたりしてしまうことになりそうである。

長尾委員 若い世代にはやはりスクリーンストレー方式の教室などが一番効果が高いのではないかと思う。

梅原委員 交通安全についての講座や教室については、老人会や家庭教育学級などの場を使って、地道にやっていくしかないのかなと思う。

長尾委員 今回、参考資料にあるベビーカーのマナーに関する資料のように、イラストで分かりやすい資料を、自転車でも作成してみて掲示するのもよいのではないか。

梶川委員 ポスターや看板などの掲示は何か欲しいところである。街中では、高齢者などは結構見ているし。

梅原委員 ビラを配る方式はあまり効果がないと思う。ボーイスカウトでも様々なイベントでスカウト募集の記事を配るが、それで来た覚えがない。新聞にいくらか払って広告を出したこともあったが、経験上、思ったような効果は感じなかった。

反町副会長 地道な活動の積み重ねにならざるを得ない面もある。広報の面ではなかはらメディアネットワークなども活用してはどうか。私の印象では、広報として最も効果があるのはタウンニュースだと感じている。例えば、1面分を使って情報発信できれば、反響があると思う。タウンニュースは結構見られているのではないか。

梅原委員 確かに、タウンニュースは効果が高いかと思う。タウンニュースを見ていらしたりする方は多い。

事務局(危機管理担当) 費用がかかってしまうが、カレンダーを作る例なども考えられる。交通安全関係の団体などを通じて配布すれば、1年間見るたびに少し意識していただけるのではないかと思われる。

梶川委員 タウンニュースへの掲載も有料ではないか。

反町副部長 例えば1面分をお願いするとどのくらいかかるのか。区役所も絡んだ公的な取組だとして、割引などがあるのか。

梅原委員 以前、自分の会社で記事として取り上げていただいたこともある。

事務局 広告としては、通常の枠の記事で5万円程度と聞いている。

コンサルタント タウンニュースはよく読まれているのか。

梶川委員 私のまわりでもタウンニュースだけはとっておいて、ゆっくり目を通すという方がいる。

コンサルタント ここで、きっかけづくりが大切という話が出た。自転車の整備の点から、自転車安全運転者証でなく、自転車の安全整備済証を作ってはどうかという案もあった。自転車に貼り付けるシールなどを作るといった方法も考えられる。スクエアドストレート方式の教室については区でも拡充する方向性であって、実際の動きもあるようだが、区民会議からもぜひということを提案の一つとしてもよいと思われる。広報としては、参加型で標語などを募集する。さらに、広める方法としては、ポスターなどによる掲示、学校での配布、しおりにして本屋で配布する、タウンニュースに掲載していくなどの案が出た。

梅原委員 掲示というのは町内会の掲示板でも、ぜひやって欲しい。

事務局(危機管理担当) スクエアドストレート方式の教室にかかる費用だが、場所代を除けば、スタッフマンに来てもらって、おおよそ1回25万円。学校のグラウンドを通常は無料でお借りして実施している。

コンサルタント 自転車安全運転者証については、関係機関との調整を始めとして、様々な検討が必要かもしれないが、自転車整備済証は自転車の整備や販売業者等の協力を得ることができれば、もしかしたら実現できるかもしれない。

梅原委員 自転車安全運転者証は講習を受けるだけでなく、自転車保険に加入し、安全整備もしているという3段階くらいの認定にしてもよい。それだけ価値があるものにしないと、ただ一度イベントや講習をやって、そこに参加した人に配るような形では権威がなくなってしまう。

成田部会長 権威を持たせることによって、そこに何か付加価値、メリットを持たせることもできるようになる。

コンサルタント 自転車安全運転者証をもっていると、駅前の駐輪場利用の抽選の際に優先権をもらえるといった例もある。

反町副委員長 とてもいいことだ。

梅原委員 それはいい。

山崎委員 持っている则自転車保険が割引になるとか、事故を起こした際にも自転車安全整備済証があれば、有利になるとか、何かしらメリットが欲しい。

事務局 自動車の車検には必ず有効期限がある。同様に、自転車安全整備済証についても、どの機関がどのように審査や認定するのか、有効期限はどうするのかなど、調整しなければならない課題が多くあると考えられる。参考資料にある茅ヶ崎市の事例では、神奈川県自転車商協同組合が点検をしているということで、県内の組織と

なると川崎市にも支部があるのかと思われるが、整備証の主体はどこかを考え、さらに、市が主体であるとした場合、実際に事故を起こした際の整備証の効果や、その安全性の証明の手法等を考えると、運用は難しいことも考えられる。

コンサルタント さらに特典を求めることは、検討にあたっては課題が多くなるとも言える。ただ、あくまで何月何日の時点で整備されていたことを確認するだけのシールだということであれば、すぐに実施ができるかもしれない。

事務局 どこまで権威や特典を求めるのかにかかってくると思われる。また、ブレーキについても、どの程度磨滅していれば危険かといった、認定の項目などを決定していくにあたっては結構難しいとも考えられる。なかなかすぐにできるというわけにはいかないとも考えられる。

梅原委員 自転車の販売業者と協力ができるとよいかも。有効期限が切れたら、整備をしてもらうような形式にすれば、業者にとってはお客が定期的に来ることが想定できるので、メリットがあると思う。協力しやすいのではないかな。

山崎委員 では、どこの業者にそれを頼むのか、というように、業者の選択にも基準が必要ではないかと思う。最後は、警察にお願いするようなことになるような気がしてしまう。

事務局(危機管理担当) 自転車も今は多くが専門店ではなく、大型の量販店で販売されている現状もある。

山崎委員 1万円またはそれ以下で買えるような自転車もある。ただ、そういった安価な自転車は安全性という面では疑問もある。

事務局 他方で、専門業者で4、5万円以上するような、メーカー製造の自転車であれば、どのような乗り方をしても数年は保障できるといった製品もあるかと思われる。いずれにしてもそのあたりの自転車の整備に関する基準等の検討や調整は簡単にできることではないと思われる。

コンサルタント 何年間有効というような権威づけは持たせず、例えば何かのイベントで集まった自転車を専門業者の方が一斉にチェックして、不備がないと認められたものには、何月何日時点で整備良好だったというような形にするなど、その程度でも啓発にはつながると思われる。ただ、そのシールが貼ってある自転車が事故のあった場合にといったことを考えると、確かにかなりの調整が必要となってくる。

山崎委員 しおりの例はよいと思う。例えば受験生が参考書を買うとついでに目にする機会を増やせば効果は出ると思う。

長尾委員 漫画を買ってもついでに目にする機会が増える。

成田部会長 ポスター等の掲示の話は、駅の周りもよいが、自転車で送迎されている方が多い保育園の前や企業の自転車置き場などに掲示できると効果が高いと思う。

山崎委員 啓発用のパンフレットなど、何か資料を作成するのであれば、今回の審議テーマでもある「みんなで育てる交通マナー」という言葉を入れたい。このテーマの目的が盛り込まれた、中原区らしいパンフレットができると思う。

コンサルタント 資料を作る際はその仕様が重要。それによって読まれるか読まれないか、大きく分かれる。提案としては、1枚ものの広報物が望ましく感じる。例えば、A4版を

3つ折りにしたくらいのハンディなもの。冊子になると配るのも大変だし、読まれない。したがって1枚ものにすれば、どの会合にも気軽に持って行って配布し、気軽に持って帰っていただくことができると思われる。

梅原委員 マンガ形式などがよいと思う。文章ばかりでは読まれない。

長尾委員 クイズ形式などもよい。

事務局(危機管理担当) 様々な啓発資料を配布している立場から申し上げると、やはりパンフレットは受け取っていただくのに非常に苦勞している。記念品と組み合わせてやると受け取ってもらえたり、それでも記念品だけとっておいてパンフレットはすぐに捨てられてしまったり、キャンペーンをやるとかえってごみが増えてしまって、残念な思いをすることがある。ポケットティッシュの中に入れるなど、いろいろ工夫はしているが、なかなか紙媒体での啓発は難しいのが現状である。

梅原委員 クリアファイルなども最近多く見かける。

コンサルタント 最近、クリアファイルは使われることが多い。クリアファイルやしおりであれば、すぐには捨てられずにしばらくは使っていただけるように思われる。パンフレットは街頭で配る際には、工夫しないと見ていただくのは難しそうである。

事務局(危機管理担当) カルタやランプ、百人一首などの標語でやっている例もある。

梅原委員 子どもの手に渡すには、学校で配ることが一番効果がありそうである。高齢者は老人クラブなどで地道に配るのもいいと思う。

長尾委員 参観日の時にとりあげてもらうのはよいと思う。校長会などでお願いをするとよい。

事務局 会議の当初、御意見のあったバス車内のアナウンスの件については、いかがか。

長尾委員 「自転車も乗れば車の仲間入り」とバスでアナウンスしているのは聞いたことがある。

事務局 役所内でアナウンスをしたり、ごみ収集車でも、選挙公報などの例があるが、街を走りながらアナウンスをする方法も考えられる。それぞれ、やり方に応じて有料にはなる。また、ごみの分別などではマグネットを配布した例もある。マグネットならば冷蔵庫に張ってもらえるのではないか。

事務局(危機管理担当) 公共建築物の壁などに子どもたちに壁画を描いてもらう例もある。

事務局 小杉3丁目東地区の周辺は来年から工事に入るため、期間限定にはなるが、工事現場の壁に啓発の絵を描くなどはできるかもしれない。

梅原委員 マグネットは水回りの業者などがよく作成している。やはり冷蔵庫にとりあえず張ったりする。広報の形としてはよいかもしれない。

コンサルタント まずは、取組(1)(4)(5)について検討し、なかでも啓発に取り組む。ベビーカーについては、参考資料の例を活用・参考にしながら、一つは子育てサロンや健診の場を活用して、ベビーカー利用中の親世代に、ベビーカー使用時のマナーを働きかける。具体的な内容としては、スマートフォンを操作しながらベビーカーや横列通行などのマナーなど。一方で、小杉駅周辺など街中では周囲にベビーカー利用者への配慮を促すような啓発用の掲示を行う。

自転車のマナー、ルールについては中心的に取り組む。スケアードストレート方

式の交通安全教室の実施については、区でも拡大傾向にあり、区民会議としても提案していく。啓発用の資料についてもマンガ形式、イラスト形式などで分かりやすく、簡易で配りやすいものができるとうい。また、参加型で啓発標語の募集やポスターを募集してコンテストなどを開催する。その発信方法としては、本屋でのしおりの配布、町会等へのポスター掲示の依頼、学校や老人会での啓発物の配布、学校の参観日の活用などが挙げられてきた。バスの車内や区役所庁舎内のアナウンスの提案も出された。これらの中から、調整してできるものから取り組んでいくという形になる。

また、自転車の整備については、ブレーキ、タイヤの空気、ライト、鍵などを点検する機会が増やせればという案や、また、広報大使などの案も出された。

反町副部長 広報大使の話が実際に可能なのかどうかは、川崎純情小町や‘ちょっकिनず’さんでよろしければ、費用も含めて私が確認できると思う。

コンサルタント 高齢者は集まる場所があるので、その場を活用して広報する。本日出された意見を基に最終案のたたき台を事務局で作成し、次回、それについて意見をいただきながら、取組提案をまとめていくという形になるかと思う。今回から次回までの間に思いついたアイデアや意見があったら、事務局の方にお寄せいただきたい。

山崎委員 短期的な提案については、大体まとめていただいた形でよいと思う。中長期的な提案についてはどうするか。

コンサルタント 本日あまり意見が出なかった事項であるが、全て今後も検討しないで削除することではなく、短期的な提案を取り組みながら、長期的な視点で実現を目指していくというまとめ方などもできると思う。次回、改めて意見をいただきたい。

反町副部長 提案の実践の段階においては、できれば何かその周知、総括のためのイベントを何かできればと思う。区役所かこすぎコアパークあたりで何かできるとういと思う。そこで、広報大使などのお披露目、啓発などもできたらとういイメージを持っている。

梅原委員 子ども世代への周知方法については学校を通じた方法がベストだとうい思う。

6 その他

次回の第8回部会の日程について、12月2日（水）に開催することを確認。

7 閉会

部長より閉会宣言

以上